

Title	安部磯雄著 最近の社会問題
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.5 (1915. 5) ,p.595(119)-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150501-0119

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

國なるは茲に喋々するの要なき所にして、獨逸は軍國の Spion
ry たるの觀ありたるが、今日迄に於ける今次大戦争の結
果は其名聲の根抵薄弱ならざりしを證明して餘りありと謂ふ可
し。然かも完全なる組織、優秀なる訓練、周致綿密なる準備は獨
逸の軍備特有の状態に非ずして、殆んど有ゆる同國民の活動に
於て之を觀ることを得るなり。教育然り、製造工業然り、商業
然りとす。

獨逸の陸軍が世界に冠たりとは自他の久しく許せし所なる
も、之を實戰に於て證明せしは今次大戦開始以後のことな
り。然るに、教育に於ては獨逸は夙に他の文明國を凌駕し商工
業に於ては其發達初めは英米佛に及ばざりしも、今は此等の先
進國を後に墮落ならしめんとせり。史を按ずるに、武運赫々た
る國民必ずしも商工業に成功せず、通商貿易に於て弱を唱へし
民族必ずしも精銳なる軍人ならざりしも、獨逸國民は平和の技
術に於ても、將た又戦争の技術に於ても世界に冠たるの觀あ
り。

斯くの如き國民が如何なる徑路を経て發達せしかを研究する
は夫れ自身に於て趣味あることなるのみならず、其研究者に對
して多大の刺戟を興ふるは疑ふの餘地なき所なり。法學士古仁
所著氏の著書「最近獨逸産業の發達」は此問題の研究に對して
豊富なる資料を提供せり。著者は先づ簡單に一八七一年前、即
ち帝國成立以前に於ける經濟狀態を紹介し、次に其以後に於て

商工業が長足の進歩を遂げたるの徑路を詳説し、轉じて此大發
展の原因を尋ね、其主なるものとして實業教育を擧げて、其種
々の制度を細説し、最後に労働者の状態を説述せり。全篇精細
なる無數の統計表を掲げて論證に備へたり。而かも其配置宜し
き得たるが爲め讀者をして毫も倦怠の念を起さしめず。記述又
簡明にして要を盡せり。

されど著者の見地と結論とに就きては讀者の中に異説を懷け
る者ある可し。例へば、著者は米國産業の大發展を以て自然の
結果とし、寧ろ人爲に俟つ處少くして其間特に研究の餘地殆ど
無きが如しと一斷じ(一―二頁)之に反して、獨逸産業の著し
き發達の原因をば主として獨逸民族の國民性と實業教育に求め
んとせるが如きは異論の存する處なる可し。(第四―五章)

又著者が有益なる種々の統計を集採採録せられたる努力に對
しては吾人の大に感謝せざるを得ざる所なるも、唯感むらくは
統計表の體裁の一様ならざることなり。例へば、或る表には最
近の數字が其初頭に擧げられ、他の表に於ては其末尾に加へら
れたるは通覽を便にする所以に非ざるが如し。又、巻尾に我國
の帝國即ち東京市に於ける物價並に貨銀に關する都合七葉の統
計表は夫れ自身に於て頗る有益なるものなりと雖も、獨逸帝國
の産業發達史の附録としては聊か不似合の觀なき能はず。然か
も此等は望蜀の念より來れる蕪辭に過ぎず。吾人は獨逸問題研
究の一好參考書をして推擧するに躊躇せざるものなり。

安部磯雄著 『最近の社會問題』

大正四年四月東京日月社發行
四六版一八六頁定價六十五錢

社會問題の研究を以て世に名ある早稻田大學教授安部氏の近
業たる本書は社會問題の意識と其解決に對して簡明なる説明と
著者自身の意見を載せたる一小快著なり。著者は社會を以て人
の身體に譬へ、社會學をば生理學と對比し、人に疾病あるが如
く、社會にも貧困なる疾病あるを説き、人の病氣を醫するに應急
手段と外科手術との二方法あるが如く、社會の疾病を救済する
にも社會政策なる應急手段と社會主義なる外科手術ありと論
じ、次に貧困の原因は主として無智と卑悪に在りと爲し、統計
を擧げて富の生産消費方法上の缺陷を詳説し、此缺陷より生ず
る富の分配の不公平、不均等なるの状態を指摘せる後、社會の
弱者の保護に對する所謂應急手段たる慈善事業、資本家と労働
者との調和、工場法、労働保險、職工組合等に關し内外諸國の
實例を引證し、轉じて社會問題解決の外科手術たる社會主義に
論及し、先づ之に政治的方面と經濟的方面の別あることを指示
したる後、本書に於ては單に經濟的方面より觀たる社會主義を
論評せんとするものなりと前提して、社會主義者の唱ふる共産
組織の長所を説明し、之に依れば貨物の生産を大に増加すると
同時に労働時間を短縮することを得、從つて社會各員の幸福を

増進することを得可しと論じ、終りに社會主義の下に於ける富
の分配方法は均分を以て良策とす可しと結論して巻を結べり。
本書は二百頁に足らざる一小冊子なりと雖も、社會問題の根本
意識と其解決上の手段に就きて一般的概念を得んと欲する者に
は稀有の好參考書なり。されば、吾人は著者とは多少見解を異
にせる所なきにしも非されども、之を江湖に推擧するの榮を有
するを欣ぶ者なり。